

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年2月24日
北陸信越運輸局

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
岡谷市地域公共交通活性化協議会	アルピコタクシー(株)	市街地循環東ルート線やまびこ公園線	<p>バスの利用者数については、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少したものの、その後は感染症の流行が落ち着き、公共交通機関の利用を控えていた層が移動需要の回復とともに再びバスを利用するようになったことで利用者数は緩やかながら回復傾向にある。</p> <p>一方で、令和2年度以前の水準まで利用者数が回復するには至っていない。その要因としては、コロナ禍を契機とした外出頻度の減少、オンラインによる買い物や各種手続きの普及など、生活様式の変化が定着したことが挙げられる。これらの変化により、日常的な外出に伴う移動需要そのものが減少しており、バス利用者数は以前の水準まで戻るには難しいと思われるが、高齢化社会により公共交通の需要は依然として高い。</p> <p>更なる実績の向上を目指し、以下の利用促進策を実施した。</p> <p>①シルキーバス及びシルキーバスジャンボタクシーの乗り方をわかりやすく説明した動画を作成し、市ホームページやYouTubeへ掲載。</p> <p>②令和6年10月1日より、運行時刻、運行経路、発着停留所等の変更を伴う大幅な改正を実施。あわせて時刻表を全面的に刷新。</p> <p>③市内の各公共交通機関(路線バス、高速バス、電車等)について、一覧できるページを市ホームページ内に作成。</p> <p>④園児が塗ったバスの塗り絵を車内に展示する「シルキーバスこども美術館」事業(令和3年度～)にて、令和5年度から年長児を対象にしたバスの乗り方教室及び体験乗車を実施。令和6年度には市高齢者クラブ連合会より要望を受け乗り方教室を実施。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B <p>①シルキーバス路線の1日平均利用者数については、目標の292人以上/日に対して296人で、目標達成率は101.3%。</p> <p>②シルキーバス路線の収支状況については、目標の17.0%以上に対して、17.9%であり、目標を達成した。</p> <p>③シルキーバスの財政負担額については、目標の65,759千円に対して68,722千円であり2,963千円超過した。</p> <p><理由> 運転手の人件費上昇、バス会社管理費(本社経費や支社経費などの一般管理費)の増加、物価高騰による修繕費の増嵩、急な車両修繕の発生等の理由により、運行経費が増加した。</p>	<p>・令和5年度に策定した岡谷市地域公共交通計画について、令和6～10年度が計画期間となっていることから、これまでの取り組み状況や成果等のフィードバックを行いながら、引き続き目標達成に向け計画内の様々な施策を実施する。</p> <p>・運行事業者の声を反映し運転手の休憩時間を十分確保できるような時刻改正(小規模)を令和7年10月1日より実施予定。今後も利用者の声や運行事業者の声を反映し、持続可能な地域公共交通の実現に努めていく。</p> <p>・収支状況については、車両の老朽化による維持修繕費や事業者の一般管理費の増加、人件費の高騰等により、経費が上昇傾向にある。引き続き運賃の見直しも検討しながら、運賃収入以外の収入確保にも努め、利便性及び収支率の高い運行を確保していく。</p>	協議会における事業評価結果の③から⑤までについては自己評価のとおりである。なお、⑥の事業の今後の改善点については、ここで示された改善策のみならず、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。